

故郷「内部」歌い継ぐ

旧東海道が通る四日市市内部地区の名所や自然を織り込んだ歌を練習する講座「東海道 歌街道」の第一回が、地元「うつべ町かど博物館」であった。住民たちが作詞作曲し「当地ソングで、「杖衝坂」「采女城」などが登場する。参加者は歌を通して郷土の歴史に思いを寄せた。

(河崎裕介)

住民が作詞作曲の歌

内部地区では旧内部村が四日市市に吸収合併されてから七十年になる。二〇一三年、連合自治会役員や町かど博物館の関係者らが中心となって郷土誌を発行した。

内部地区では旧内部村が四日市市に吸収合併されてから七十年になる。二〇一三年、連合自治会役員や町かど博物館の関係者らが中心となって郷土誌を発行した。

練習き講座開き 指導山口さん歌手



「東海道 歌街道」に収録された歌の指導をする山口亮さん(右)＝四日市市采女町の「うつべ町かど博物館」で

で病に苦しんだ日本武尊が登り、「足が三重に曲がってしまった」と言い、三重の県名の由来になったともされる。

電子キーボードの演奏に合わせて「夢を背負ってこの坂を 登れば幸せ来ると言う」と歌い上げた。現在も土塁などの遺構が残る采女城が登場する「采女の歌」も練習した。

町かど博物館の東川修館長(左)は「歌はこの講座だけで終わらせず、夏の盆踊りなどイベントの会場で流して、ご当地ソングとして定着させたい」と話した。

二回目以降の講座は三月三日に小古曾公会所、十日、三十日に内部地区市民センターで、いずれも午後一時半から開く。定員二十人(当日の先着順)。参加無料。内部地区市民センター 059(345)395

初回は住民二十人が作曲を手掛けた演歌調の